



信州大学 (長野県)

豊かな自然。地域とのふれあい。実践に則した日本語が学べます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

信州大学は8学部（人文、教育、経法、理、医、工、農、繊維）、5大学院研究科（総合人文社会科学、教育学、総合理工学、医学系、総合医理工学）を擁する総合大学です。松本・長野・上田・伊那に5つのキャンパスがあり、学部学生約9,000名、大学院生約2,000名、計約11,000名が学んでいます。そのほかにグローバル化推進センター、6つの研究領域で特色のある最先端の研究を行う先鋭領域融合研究群などの教育・研究施設があります。キャンパスのある各地域は、豊かな自然環境と伝統ある教育環境に恵まれ、独自の発展をみせています。



松本キャンパスの中央図書館

信州大学は各地域の発展のために教育的にも経済的にも大きな貢献をしており、日本の大学ランキングの「地域貢献度」では2012年から4年連続、そして2019年2020年にも日本一になりました。

② 国際交流の実績

海外の大学との学術交流協定(2023年5月1日現在)
大学間協定：113大学 学部間協定：89大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研究生)の受入れ実績

2023年：留学生数325人、日研究生4人
2022年：留学生数335人、日研究生4人
2021年：留学生数313人、日研究生5人

④ 地域の特色

本学は、「信州」という日本国内で有名な山岳リゾートに位置しており、日本のほぼ中央にあります。高い山々に囲まれ、四季折々の景色が美しく自然豊かな地域です。登山に関しては日本一であり、国立公園や高原、山々など、自然の中に簡単に入って楽しんだりフィールドワークを行うことができます。歴史を感じさせる古城や神社仏閣が多くあるほか、豊富な温泉も長野県の大きな特徴の一つです。1998年に冬季オリンピックが長野市で開催されたように、冬はウィンタースポーツの中心地としても有名です。

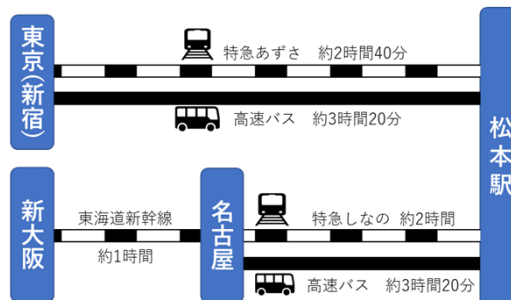


松本城



紅葉の北アルプス

日本語・日本文化研修留学生(以下、日研究生)が学習する松本キャンパスは、日本の中心にあるため、東京・名古屋から電車で2時間30分、大阪からでも3時間30分と大都市への移動も簡単です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

信州大学では日本語教育を実施しており、レベル別指導やアカデミックな日本語の指導まで幅広く行っています。また、日本文化についても学習機会が多くあります。さらに、人文・経済・理学の専門科目の受講も、条件がそろえば可能です。



授業の様子

また日研生が自国の紹介を行うことにより、日本人学生の国際理解進展につながり、お互いに刺激しあっています。それにより日研生の出身国に留学する日本人学生が増え、また日研生が信州に戻るなどプラスの循環が見られます。これからの日研生にも同様の活躍を期待しています。



授業で着物体験

多文化共生と国際交流の祭り

③ 受入定員

5名（大使館推薦3名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本人と一緒に授業が受けられる人
- ・辞書を引きながら日本語の資料が読める人
- ・自分の専門分野について日本語で説明できる人
- ・日本人と積極的に関わる意志がある人
- ・日本人に自国の文化を紹介する意志がある人

⑤ 達成目標

CEFRの「C1」程度を目標としますが、自分の専門分野について、日本人に日本語で効果的なスピーチができれば達成とみなします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
(2024年10月1日 ～ 2025年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月



⑧ 研修・年間スケジュール（変更になることがあります）

- 9月下旬 渡日
- 9月下旬 日研生ガイダンス・授業開始
- 10月 浅間温泉たいまつ祭り(日本三大奇祭)
- 12月 多国籍料理パーティー
- 1月下旬 1学期目のテスト・レポート
- 4月 日本人交流グループとお花見
- 6月 多文化共生と国際交流の祭り
(一般の日本人と共に祭りを創る)
- 7月下旬 2学期目のテスト・レポート
- 8月 発表会
- 8月 松本ぼんぼん(松本最大の祭り)
- 8月下旬 修了式・帰国



⑨ コースの修了要件

以下の条件を満たせば修了となります。

- 1) 必修科目を含む12科目14単位以上を修得する。
- 2) 国際共修・国際理解に関する講座に参加する。
- 3) 期間中の学びを発表会で発表する。

修了要件をクリアした者は、修了証書を授与します。帰国後になりますが、信州大学の発行する成績証明書を、単位認定後に郵送します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の概要

⑦ 日本語と日本社会の学習

これまで学んできた日本語力をさらにブラッシュアップするための日本語の科目が用意されています。大学レベルの授業についていけるための読解・聴解・作文等を学びます。また、日本の地域(松本)・歴史・医療等を学ぶ科目、仕事観・就職活動の進め方について学ぶ科目等もあります。長野県内の企業を回るイベント等もあります。



④ 広範囲の科目と専門科目

日研生は、学部1年生が受ける非常に広範囲で大量の科目から自由に選んで受けることができます。その中には、留学生と日本人学生が深く連携して学ぶ「国際共修」の科目も多くあり、日本人の友達を作りやすいです。

また、人文・経法学部の専門科目も受けられることが多いです。先生の許可が出れば、より専門的で深い内容の勉強を進めることも可能です。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

⑦ 日本語作文

- ① 一般学生向けに開講する教養科目、専門科目
2学期目に留学生に特化していない授業を3科目(6単位)以上受講することを必須とします。
日本語レベルが低いと判断した場合、必須科目を一部変更する場合があります。

II) 選択科目

以下の授業を受講することを推奨しています。

- ・「国際理解と多文化共生を考える」
日本人との共修による多文化共生等の学習
- ・「日本社会と日本人」
就職活動やビジネス等、日本の様々な側面の紹介および議論
- ・「武道伝統文化実習」
茶道、着物、剣道など

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容

信州大学にある教育学部附属小学校や中学校の国際理解講座の授業に参加します。小・中学生と交流しながら日本の初等教育についても学び、皆さんの国の教育を小中学生に伝えます。



附属中学校での国際共修

4) 日本人学生との共修科目及び具体的な内容

「国際理解と多文化共生を考える」

この授業は日本人学生と留学生がほぼ半数の50-70名で受講するもので、日本人・留学生同数の小グループ(4, 5名)を形成します。授業は、講師が日本や世界の多文化共生に関する情報や直近の世界的話題を提示し、問題提起した後にディスカッションをする形で進みます。毎週の課題と小テスト、グループ全体でのスライド作成、期末レポート等の課題を通じて学習を深めます。



安曇野での日本人との交流会

グローバル化推進センターが開講する授業については、ホームページで詳しく調べることができます。

① 指導体制

・指導教員

日研生はグローバル化推進センターの所属となり、専任教員が学業面・生活面について個別指導を行っています。

専任教員： 佐藤友則

・協力教員等

人文学部等、専門分野の協力教員と連携して多岐にわたる専門の学習をサポートしています。

・チューター

日本人学生がチューターとして、皆さんをサポートします。来日時の煩雑な手続きや学習面、生活面の相談相手、観光スポットの紹介など頼れる相談相手です。



国宝松本城と留学生たち

■ 宿 舎

① 宿舎状況

キャンパスまで歩いて10分以内のアパートを紹介しています。エアコンが設置され、インターネット環境も整っています。

② 宿舎費

32,000円～35,000円/月（インターネット無料、光熱費は別）
入居時初期費用：約10,000 ～ 48,000円/年（共益費ほか）
*費用は変更の可能性があります。

③ 設備

家具・家電製品・ガスコンロがついています。身の回りのものだけ持ってくれば生活ができます。自炊可能です。



■ 修了生へのフォローアップ

信州大学の日研生プログラム修了生とは、信州大学国際交流同窓会を通じて連絡を取り合っています。同窓会の本部は松本、支部は、韓国、中国(北京&上海&石家荘)、タイ、モンゴル、ベトナム、マレーシアにあり、将来的には欧州、米国、インドネシアなどにも展開が予想されています。

修了生の中には大学教員になっている人もおり、その修了生の勤務する欧州の大学と信州大学の大学間交流協定締結が実現したり、その大学から新たな日研生が来学するなどの成果があがっています。また、卒業後に長野県の企業に就職し、母国と長野県の懸け橋になっている者や、休暇で松本を訪問し、自分が勤める会社について日本人学生にプレゼンをする者もいます。



国際交流同窓会・松本の様子



キャンパスを歩く留学生と日本人学生



「松本ぼんぼん」祭りの踊りの練習

■ 問い合わせ先

<担当部署>

国際部国際企画課

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL +81-263-37-3360

FAX +81-263-37-2181

E-mail: gecschlr@shinshu-u.ac.jp

<担当教員>

グローバル化推進センター 佐藤友則

E-mail: stomo@shinshu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

グローバル化推進センターホームページ:

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/>

信州大学ホームページ:

<https://www.shinshu-u.ac.jp/>